

## 2013 年度 InterRidge-Japan 連絡会 議事メモ

日時 2013 年 5 月 22 日(水) 13:00-14:00

場所 幕張メッセ 101B

出席者 20 名 (別添リスト)

### 1 報告事項

#### 1.1 2012 年度活動概要(沖野)

- ・ 2012/5/22 幕張メッセにて 2012 年度国内連絡会を実施した。出席者 29 名。
- ・ 研究集会は 2012 年度は実施しなかった。
- ・ 2012/6/2-3 InterRidge Steering Committee (ロシア、サンクトペテルブルグ) に委員を派遣。出席：砂村、熊谷
- ・ StCom 委員を熊谷さんから富士原敏也さん (JAMSTEC) に交代。任期 2013-2016。
- ・ 国内事務局会計：連絡会開催時の寄付収入等、現資産 34,561 円。
- ・ 2012 年の InterRidge 分担金は JAMSTEC から 12,500 米ドル、科研費「海底下の大河」から 12,500 米ドル支払った。
- ・ 2013.3 月、東大のメールサーバーシステム変更に伴い、IRJ のメーリングリストのアドレスが変更になった。[intridge-j@aori.u-tokyo.ac.jp](mailto:intridge-j@aori.u-tokyo.ac.jp)。現在登録者 140 名。ウェブの更新を怠っているため、連絡会後に早急に更新の予定。

#### 1.2 StCom 報告+国際情勢 (砂村)

日本委員による報告、オフィス正式レポートは以下のウェブサイトにあります！

[http://ofgs.aori.u-tokyo.ac.jp/intridgej/report\\_html/NoteStComm2012.pdf](http://ofgs.aori.u-tokyo.ac.jp/intridgej/report_html/NoteStComm2012.pdf)

[http://www.interridge.org/files/interridge/IR\\_2012\\_StComm\\_final.pdf](http://www.interridge.org/files/interridge/IR_2012_StComm_final.pdf)

- ・ 2013 年からのオフィスを北京に決定した。議長 J.Chen
  - ◇ 新オフィス、コーディネータでスタートした(2013)。
  - ◇ 海外送金ができない問題については、議長の個人口座利用などの対応を考えているが、今後も注意が必要。
  - ◇ 副議長は第 2 海洋研究所の要職にある資源関係者。
- ・ 3rd Decade Plan について、一部は現在まだ改訂中。
- ・ 若手助成は継続。ただし ISA の枠について、対象者の再確認が必要。
- ・ 航海乗船奨励も本来の目的に立ち返り、これまで連携のなかったグループ間の交流を促進
- ・ データベース等はポータルサイトの機能を強化
- ・ 企業等からの資金獲得については、推進する意見と中立性の保持を懸念する意見がある。
- ・ (会議後追加) ワーキンググループ活性化と相互連携のため、企業やテクノロジーの人も含めたりエゾンパネルを作る。この部分については外部資金は受け入れないで IR が独立で行う。そのためのガイドラインを作る。調整は IR オフィスで行う。

### 2 審議事項

- ・ 今後のメンバーシップのありかたと分担金の支払いについての議論を行った。

- ・ 現在正会員会費 25,000 米ドル。1999 年以降は、半額を大学側で半額を JAMSTEC で負担してきた。大学側は 2002-2005, 2008-2012 は大型科研費で支払っている。2006-2007 は 3 カ所程度に分けて関係者の研究費等で分担した。2013 年度について、現在請求先をどこにするかの問い合わせがきている。大学側は 12,500 米ドルをまとめて払える資金源はない。
- ・ 選択肢として、小額(一口 10 万程度)づつ広く多くの機関・関係者で負担する、準会員となる (年間 5,000 米ドル、StCom1 票) があり得る。
- ・ 現在のオフィス運営の会計については、少なからず問題がある。特に人件費がかかりすぎである。中国にオフィスが移動したことで人件費は相当削減されるはずで、その他もきちんと見直せば、現状規模の活動を維持する予算は小さくてすむ。正会員の会費を下げる (せめて 2005 年の値上げ前の 20,000 米ドル) ことは可能ではないか。
  - ◇ 2012 年度の IR の予算総額は 379,550 米ドル。ただし、120,000 程度は予備費として繰越を続けているので実質規模は約 260,000 米ドル。
  - ◇ 正会員は 6 カ国で  $6 \times 25,000 = 150,000$  米ドルを分担
  - ◇ 2012 年度の英国でのコーディネータの人件費は 133,396 米ドル！！！！
  - ◇ 中国でのコーディネータの給与は募集要項によると 55,000 米ドル
- ・ 分担金の負担が困難であること + 正会員の会費値下げについては、2012 年度 StCom でも話題にしているが、あまり支持が得られていない。
- ・ 米国も R2K 終了でナショナルプロジェクトはないが、何年かは分担金の支払いをする約束が NSF とある (が、おそらく近いうちにそれもなくなる → 後日確認 2012 までが約束されている、今年は不明)。StCom への委員派遣も減っている。
- ・ 準会員となったとして、StCom の 1 票はあるが、結成時からの正会員国である日本が抜けると国際 IR そのものに大きな変化をもたらす。
- ・ 日本のコミュニティとしては、正会員として今後も支えていきたい思いはあるが、分担金の額に比して得るものが見合っていない感がある。(WG の活動や若手支援の利用を国内で促進したとしても)

結論：次回 StCom (8 月) 前に資料として中国オフィスによる予算案が委員に送られてくるので、それを国内で回覧する。日本として予算削減 + 会費減額の具体的な提案をつくり、StCom に臨む。減額に賛同が得られるように、欠席の国 (米国は欠席が多い) に事前に連絡する。減額案が認められるようであれば、国内については広く分担金負担者をリストアップして分割払いする。

### 3 連絡事項

- ・ InterRidge-Japan 研究集会は 11 月 11-12(月~火)に柏の東大大気海洋研にて開催。12 日午後は日韓インド洋ワークショップとの共催とし、インド洋海嶺関係の講演 (英語) を集める。9 月初旬にタイトル募集の予定。

出席者 20名

砂村倫成  
熊谷英憲  
浦辺徹郎  
石橋純一郎  
佐藤利典  
阿部なつ江  
仙田量子  
渡部浩美  
山本啓之  
佐藤太一  
富士原敏也  
島伸和  
佐藤暢  
野木義史  
木下肇  
町田嗣樹  
浅田美穂  
森下知晃  
藤井昌和  
沖野郷子